



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

2025年6月

from Radiation House

MRI検査 金属持込事例

MRI検査時には体内金属物や身に着けているものに制限があり、問診票等を利用して金属持込事故の防止に努めていますが、金属の持込事例が発生しました。

体内金属有無の確認

1. 医師は患者の金属異物等、MRI検査に問題ないことを確認してからMRI検査の指示を出す。
2. MRI撮影を行う患者は、検査前の問診票に体内及び装着している金属類について記載し、外せるものはすべて外してMRI検査を受ける。
3. 入院患者等で問診票の記入が困難な場合は、看護師が問診票に金属類について記載する。
4. 診療放射線技師は、患者に対してMRI検査の前に金属類の最終確認を行い、金属持込を防止する。

今回の事例では、**医師の検査指示時の未確認**、**看護師の問診票の記載内容の記入間違い**、**診療放射線技師による本人への確認不足**により金属確認のチェックを通り抜け、MRI検査時に金属異物を装着したままとなりました。

MRI検査では放射線の被ばくはありませんが、目に見えない磁力、電磁波を使用しているため、持ち込み物に制限があります。最近は、持続グルコース測定器（リブレ）装着したまま検査に来て、検査直前に判明する事例が増えています。他科依頼等、金属類に気が付くことが難しい事例もありますが、安全な検査を行うために丁寧な問診と確認を行い、病院全体で事故防止に取り組んでいく必要があります。金属の確認の必要性を再認識し、金属持込を無くすように皆様のご協力、宜しくお願い致します。（文責：飯島）

造影C T検査施行についての疑問

Q：造影剤によるアナフィラキシー反応の初期対応とは？

⇒ 造影剤投与後患者の容体が変化した場合には
ためらわず標準量0.3mg(成人)を大腿前外側部に
筋注することが推奨されています。

Q：造影剤による副作用はどれくらいの頻度で発生する？

⇒ 経静脈投与された場合発現率は全体で3.13%。
重篤な副作用の発現率は0.04%～0.004%といわれて
います。



質問・疑問等ございましたら、お気軽に
放射線科までお尋ね
ください。

文責：滝田